# 序　文

熊本大学埋蔵文化財調査室は，本学のキャンパス内に埋もれた文化遺産を調査する目的で，平成6年に設置されました。爾来，本学キャンパスの再開発の進行に伴って，埋蔵文化財調査委員会と密接な連携を保ちつつ，労苦の多い調査活動を極めて積極的に展開し，数多くの貴重な成果を蓄積すると共に，それらを公表してきました。

本平成11年度におきましては，黒髪地区の自然科学研究科・理学部合同研究棟等及び本荘地区の医学部附属病院西病棟等の新築工事に着手することを許され，これに関連する調査も含め調査室の遺跡発掘調査は14カ所，総面積は実に4800m$^2$にも及びました。発掘は昨年4月から本年3月まで，休みなく実施され幾多の特筆すべき成果が得られました。本荘地区の調査によって，古墳時代の集落跡が発見され，白川左岸の自然堤防上には弥生時代以降久しく続いた古代人の居住地形成の営みが明らかにされました。また黒髪地区では，少なくとも縄文時代後期から大規模な集落が営まれていたことを窺い知ることのできる結果が得られたのでした。

これらの成果は一部にすぎず，植物種子や動物遺存体などの自然科学の視点からも興味深い遺物をもたらされました。ために，調査にあたられた方々は多忙を極め，発掘物の自然科学的分析は今後の課題として残されはしましたが，本年度の成果はとりわけ豊かであり後の関連研究に大きな貢献を果たすであろうと思います。

埋蔵文化財の調査・研究は時間と多大の労力を必要としますが，報われることの少ない仕事であります。人的にもまた財政的にも極めて限られた不充分な条件下にも関わらず，着々と調査を進め成果を築いてこられました。熊本大学埋蔵文化財調査室長甲元眞之教授，同埋蔵文化財調査委員会委員長北野隆教授はじめ関係各位の御努力に対し深く感謝いたします。また，調査の結果が広く関係領域研究のために活用されることを強く希望します。

2000年3月25日

熊本大学

学　長　江口吾朗

# 例　言

1. 本書は熊本大学構内において，1999年4月1日から2000年3月31日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査室の活動内容に関する年次報告書である．
2. 構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を示す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理管理している．
3. 遺跡略号は，地区ごとにローマ字3文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH）．
4. 遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．
5. 本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査室にて保管している．
6. 本書で使用した遺構実測図は，小畑弘己・大坪志子をはじめとする調査参加者が，遺物実測・製図は小畑・大坪・藤江望・藤木聡・中川毅人が行った．
7. なお，遺構実測に遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3－アーケオテノクノ社）を使用した．
8. 本書の執筆は，表1，付篇および抄録を松嶋木綿子が，Ⅱ—3及びⅡ—4を小畑が，第Ⅲ章は小畑・大坪が，跋文は甲元室長が，英文サマリーを大坪が，ハングル文については小畑が行った．その他の文章は大坪が執筆した．
9. 本書の編集は，甲元室長の指導のもと大坪が行った．